

事業番号	09 04 05	事業改善シート（令和7年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	水産振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課	
		実施期間	S25 ～	E-mail	enchiku @ pref.nagano.lg.jp	

1 現状と課題

本県の水産業は内水面養殖業と河川湖沼漁業からなる。養殖業では、信州サーモンをはじめとする信州ブランド魚の生産が行われているが、小規模事業者が多く、経営の安定が求められる。河川湖沼漁業では、組合員の高齢化と担い手不足が進展するに従い、漁業協同組合の収入減少により増殖放流量が少なくなり、遊漁者減少の一因となっている。

2 事業目的

本県の水産業を持続的に発展させるために、河川湖沼における自然生態系の生産力を活かした水産資源の増殖や、特徴ある漁場づくりなどにより活力ある漁業協同組合の経営を実現するとともに、消費者や実需者から求められる魚づくりで儲かる養殖業の実現をめざす。

3 事業目的を達成するための取組

- ①信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給
- ・実需者等のニーズに応える生産の確保とブランド化を図るため、信州サーモンと信州大王イワナの稚魚を生産し、県内養殖業者に安定供給
 - ・令和7年度は、信州サーモン40万尾、信州大王イワナ7万尾を目標に生産
- ②諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発
- ・ワカサギの採卵量を安定させ、資源の増殖を図るため、湖内で捕獲した親魚を用いた新たな増殖技術を開発
 - ・テナガエビの種苗の大量生産技術を開発するとともに、諏訪湖に適した資源管理方法の確立に向けた調査を実施
- ③外来魚等の食害防止に対する支援
- ・ブラックバス等の外来魚やカワウによる魚の食害を防ぐため、漁業協同組合が行う駆除や追い払い等の取組を支援

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度	R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移		
①	信州ブランド魚の生産量	t	350	390	↗	424	↗	450	未達成 第4期長野県食と農業振興計画における達成指標（令和3年度：357t→令和9年度：485t）に基づき、3年目である令和7年度は450tを目標値とする。
②	諏訪湖におけるワカサギ等の増殖技術研究課題数	課題	4	4	→	4	→	4	達成 農業技術ステップアッププログラムの短期（R5～9年度）課題のうち、R7年度における取組課題数を目標として設定。
③	外来魚の駆除尾数	尾	75,271	82,676	↗	138,444	↗	48,800	達成 R4年度駆除実績（尾数）の5%増を目標とする。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近 3 か年の状況					目標		
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
2-1①	成長産業の創出・振興	☆農業農村総生産額	億円	2023 (R5)	3,911	2024 (R6)	4,278	2025 (R7)	4,684 (概算計値)	2027 (R9)	3,700

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	117,554	0	117,554	70,877	112,541	29.5
R6年度	1,726	112,790	0	114,516	67,307	108,712	29.5
R5年度	22,572	102,576	0	125,148	54,257	101,651	29.5

事業番号	09 04 05	事業改善シート（令和 7 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	水産振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課	

7 主な取組実績と成果

①信州サーモン、信州大王イワナのブランド化に向けた種苗生産・供給

- ・令和 7 年度の信州サーモンの種苗供給量は46.8万尾であり、過去最高実績（R 6 年度：44.7万尾）を上回った。
- ・令和 7 年度の信州大王イワナの種苗供給量は9.3万尾となった。

②諏訪湖におけるワカサギ等有用水産資源の増殖技術の開発

- ・ワカサギ卵採卵量の安定化や資源増加を目的に「ワカサギ親魚水槽内自然産卵法の開発」及び「ワカサギ耳石標識技術の開発」に取り組み、ワカサギの資源管理や自然卵の採取に努めた。
- ・テナガエビの増養殖技術の開発に向け「テナガエビ幼生及び親エビ幼生技術の開発」及び「テナガエビ資源モニタリング調査及び繁殖生態調査」に取り組み、諏訪湖のテナガエビの資源状況や生態等の把握に努めた。

③外来魚等の食害防止に対する支援

- ・県単独事業の外来魚等食害防止対策事業により、外来魚対策 6 団体、カワウ対策 7 団体、ミンク対策 1 団体の取組に経費補助し、漁業被害防止対策を推進した。
- ・上記事業により、外来魚138,444尾、カワウ10羽の駆除に寄与した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	信州ブランド魚の生産量	R6年度推移	↗	R7年度推移	↗	達成状況	未達成
新型コロナに端を発する生産量の一時的減少から回復傾向にあるものの、需要に供給が追いつかず、本来より小さいサイズ（t）で出荷せざるを得ない状況などから目標未達成となった。一方で令和7年度の稚魚出荷量は計画比117%（約47万尾）となり、出荷サイズになる2～3年後の生産量が期待される。							
指標 ②	諏訪湖におけるワカサギ等の増殖技術研究課題数	R6年度推移	→	R7年度推移	→	達成状況	達成
ワカサギ及びテナガエビの増殖等技術開発に向け、試験研究を進めている。令和 7 年度は目標とした 4 課題全てに取り組むことができた。							
指標 ③	外来魚の駆除尾数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↗	達成状況	達成
外来魚等食害防止対策事業により地域振興局を通じて漁業協同組合等が行う外来魚の駆除活動を支援し、令和 7 年度は 6 団体が実施し、目標を大幅に上回る138,444尾を駆除することができた。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・信州ブランド魚の生産量は、新型コロナの影響により生産量が一時減少したものの、回復傾向にあり、令和5年度から毎年度前年度比で 1 割程度増加している。一方で、コロナ過以降に拡大した需要に対し供給（生産量）が追いついていない状況であり、取引先の要望に応じるため本来より小さいサイズで出荷するなど、生産量（t）の上げ幅に影響を及ぼしている。
- ・諏訪湖のワカサギ及びテナガエビについては、諏訪地域の住民から、特産物として漁獲量増加の要望が強く、資源量増加のための技術開発と速やかな技術普及が求められている。一方で増殖技術の開発には資源管理の難しさなど課題も多く、長期的な計画を立て取り組んでいる。
- ・カワウや外来魚等による漁業被害低減のため、漁業協同組合等団体による外来魚等食害防止対策事業を活用した取り組みが進められているものの、被害はいまだ大きい。最新知見等も活用し、継続した取り組みが必要である。

(2) 事業改善の方策

- ・県水産試験場による信州ブランド魚の種苗の安定供給に引き続き努めるとともに、生産量の増加を図るため、飼育期間の短縮や病気などによる損失低減技術の開発、また養殖業者への生産効率向上に向けた技術支援を継続する。
- ・ワカサギ及びテナガエビの増殖技術については、これまでの研究結果や最新の知見等を踏まえ、引き続き計画的に開発を行う。
- ・カワウや外来魚等による漁業被害低減のためには、漁業協同組合等による継続した取組が求められる。漁業協同組合等が継続的、効果的に対策を講じていくため、引き続き経費の補助を行うとともに、最新の知見等の普及指導に努める。

事業名	水産振興事業	部局	農政部	課・室	園芸畜産課
-----	--------	----	-----	-----	-------

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	水産試験場種苗開発費		26,767 千円	31,086 千円	38,428 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	ニジマス種苗供給 在来マス・信州サーモン種苗供給	直接	養殖魚の品質向上及びブランド魚普及のための種苗供給を実施 信州サーモン 46.8万尾 信州大王イワナ 9.3万尾 ニジマス 卵208万粒 イワナ 4.7万尾、卵10.2万粒		
2	アユの種苗供給	直接	河川での水産資源増大及び養殖魚の品質向上のための種苗供給を実施 アユ 63.1万尾		
3	シナノユキマス・フナ等種苗供給	直接	河川での水産資源増大及び養殖魚の品質向上のための種苗供給を実施 シナノユキマス 89.2万尾 フナ 1.1t ウグイ 3.8万尾、卵150万粒		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	水産試験場試験研究費		17,611 千円	15,279 千円	15,628 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	増養殖技術の改良・確立	直接	増養殖技術の高度化のための魚病対策、資源管理技術の開発研究を実施 取り組む研究課題数5件		
2	市場性の高い品種の開発	直接	品質の良い養殖魚を生産するための優良品種の開発を実施 取り組む研究課題数2件		
3	水産環境の保全	直接	水産資源の保護培養のための環境保全対策研究を実施 取り組む研究課題数2件		

細事業No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	水産試験場技術指導費		3,286 千円	3,625 千円	3,838 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	養殖漁業指導	直接	養殖業の発展を図るため、魚病診断・対策指導など安全・安心な魚づくりに関する指導、養魚場巡回指導及び養魚技術講習会を実施 指導件数510件、講習会2回		
2	河川湖沼漁業指導	直接	河川湖沼漁業の発展を図るため、外来魚対策などの環境保全や漁場管理の指導及び増殖手法の普及を実施 指導件数391件		
3	寒天製造技術指導	直接	良質な天然寒天の安定生産を図るため、藻の性状分析、製品等の依頼分析を実施 寒天依頼分析件数138件		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
4	水産試験場運営費		44,413 千円	56,126 千円	52,145 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	水産試験場の円滑な運営	直接	水産試験場の円滑な運営・管理を実施 県内4試験場・試験地の運営		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
5	外来魚等食害防止対策事業		1,506 千円	1,470 千円	1,331 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	外来魚等食害防止対策推進事業	直接	外来魚等食害防止対策事業を推進するため、調整等事務を実施 打ち合わせ会議1回		
2	外来魚等食害防止対策事業	補助金	外来魚等による漁業被害防止のため、それらの駆除及び食害防止に要する経費補助（補助先：漁業協同組合等）を実施 外来魚対策6団体、カワウ対策7団体、ミンク対策1団体		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
6	漁業指導事業		2,866 千円	1,122 千円	1,171 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	内水面漁場管理委員会の運営	直接	漁業法に基づき設置が義務付けられた委員会で、知事の諮問事項等を協議 委員会3回		
2	組合検査指導事業	直接	漁業協同組合等の健全な運営を図るため、業務及び会計状況の検査を実施 常例検査31団体		
3	漁場利用調整事業	直接	漁業権者からの申出がなかったため、協議会は開催されなかった		